



5
10
20
30
40
50
60
70
80
90

創立30周年記念

第568回『定例会』(6.5) 令和3年度《總會》の開催

令和3年6月5日
大和言語『さくらの会』

本日は、『定例会』と会則の第5条に則って、令和3年度『總會』を開催します。

- I) ラジオ体操……………元気いっぱいにやりましょう!
- II) お口の体操……………富井様、ご指導をよろしくお願ひ申し上げます。
- III) 總會議事次第
 - 1 開会挨拶……………会長
 - 2 議長選出……………選出
 - 3 審議事項……………第1号議案…令和2年度活動報告 (会長)
第2号議案…令和2年度会計(収支)報告 (会計担当)
第3号議案…令和2年度会計(収支)の監査報告 (監査役)
第4号議案…令和3年度役員選出及び担当係の紹介 (会長)
第5号議案…令和3年度活動計画(30周年記念を含めて)の説明と審議 (会長)
第6号議案…令和3年度会計(収支)の予算案と審議 (会計担当)
 - 4 閉会挨拶……………監査役
- IV) ご報告……………会長から県失語連の『總會』(鎌倉5月22日)について
- V) さくらの会の来歴…《創立30周年記念》を迎え主なる歩みを辿りましょう!(添付ご参照下さい)
- VI) 本日の“おしゃべりコーナー”のテーマは、《創立30周年に思いを寄せて》を語り合ひましょう!
『さくらの会』は、30年前の4月20日が誕生日であります。会員は4名、ボランティア2名、社協(社会福祉協議会)2名でスタートされた。
五周年記念誌である“あしあと”を拝読すると、当時の『定例会』の会場は初代会長の島田悦子様のご自宅の由。
今、会員になって、皆で励まし合ひながら勉強し、それぞれに感慨深いものがあると存じます。学んだこと、楽しかったこと、辛かったこと等々を語り合ひましょう! 加えて、これからの期待や要望なども語り合ひましょう!
私達が今あるのは、『さくらの会』を立ち上げて戴いた多くの皆様(市保健予防課と社協の職員の方々を始め、諸先輩、ST先生、音楽先生、ボランティア、ご家族)のご支援とご指導のお蔭様であります。
《30周年》の節目に、皆様の掛け替えのない恩恵に改めて感謝する共に、先人の《志と情熱》を引き継ぎ、後に続く後輩の為にも『さくらの会』の維持発展に精一杯に努めましょう!
そして、“感謝=恩返し”を具体的な形を皆で語り合ひ合うことをご提案します。
- VII) “感謝の心”……………《心の中で感謝するだけなら、本当の感謝ではない。
自分 は行動の中で感謝を示す》(ネットより)

今年の《母の日》は、5月9日です。(5月の第2日曜日)

《母の日》の由来は、100年前にアメリカのアンナ ジャビスと云う女性が亡き母の日を追悼するために教会でカーネーションを配ったのが始まり。州の知事が5月第2日曜日を「母の日」と宣言。

やがてアメリカ全土に広がったと云われている。

日本は明治末期に教会で始まり、徐々に全国に広まった。(亡くなった母には白いカーネーション。生前には赤いカーネーション)

《母の日》に又しても涙こぼれり……

「ぼろくずの歌」

松村又一作

新らしき衣服つくりて喜べど
もったいなしとて袖を通さず
新らしき足袋を求むれど

吾足袋をつぎごっこして日向に座り
ぼろくずの歌を歌いつづけし母なれば

なにか痛々しく

哀れになりて

またしても涙こぼるるなり

明治のはじめの生まれなりし故か、世のさまの

移り変わりも知らず、家猫のごとく家にこもりて

いささかのことに喜び、いささかのことに怒り、

いささかのことに愚痴をくりかえし、いささかの

ことに悲しみ嘆き、感情の起伏のままにその日を

過し、かくて九十二年の幕を閉じたり。

哀れにも愚かな母なりしかど、

ああされどわれを生み、われを育てし母なれば

かりそめならず、そを思い、

これと見えば……

この詩は昭和35年、朝日新聞の“天声人語”に載っていたものです。

詩人の松村又一は、平成2年9月30日に亡くなった。享年94歳。

♪国境の春♪(岡春夫 昭14年) ♪お月さん今晚は♪(藤島恒夫 昭32年)のヒット。

♪かあさんの歌♪ (作詞、作曲 窪田聡 昭31年発売)

かあさんは 夜なべして
手ぶくろ 編(あ)んでくれた
木枯らし吹いちゃ つめたかると
せつせと編(あ)んだだよ
故郷(ふるさと)のたよりはとどく
いろりのにおいがした

かあさんは 麻糸(あさいと)つむぐ
一日つむぐ
おとうは土間(どま)で わら打ち仕事
おまえもがんばれよ
故郷の冬は さみしい
せめてラジオ聞かせたい